



1 スケジュール

| | 月日(曜) | 時刻 | スケジュール | 備考欄 |
|-------------|--------------------|----------------------------------|---|--|
| 一 日 目 | 3/8 (木) | 08:00 10:00 12:30 15:00 | 関西国際空港4F出発ロビー集合 関西国際空港 発→→→→NH159 北京首都国際空港 着 フリー&ショッピング | 【宿泊先】北京 ノボテル新僑 北京市東城区東交民巷2号 TEL: (010)65133366 |
| 二 日 目 | 3/9 (金) | 08:30 08:00 終日 | グループA..... ・北京・郊外観光: 北京動物園 天安門広場 故宮 万里の長城 グループB.....@北京大学環境学院 ・TV会議システムセッティング ・TV会議北京大学⇄甲南大学情報教育センター間テスト | |
| 三 日 目 | 3/10 (土) | 08:00 10:00 13:00 17:30 | ホテル発 北京大学東門集合 北京大学環境学院 公聴会 昼食会 北京大学環境学院大学院生との学生交流会 北京大学考古博物館 視察 (オプションツアー) 中国雑技団 観賞 | |
| 四 日 目 | 3/11 (日) | 午前中 11:20 14:30 18:30 | グループA:フリー & ショッピング グループB:会食@上海小南国 ノボテルホテル 空港行バス 北京首都国際空港 発→→→→NH160 関西国際空港 着 | |

- 今回の活動は、谷口先生の大阪産業大学の「環境心理学」「臨床環境論」「環境教育論」の講義を通じて初めて参加しましたが、とても役に立ちました。北京大学で学術研究交流や学生交流を経験した上に、日本と中国における環境問題に、違う対策が実施されているとわかりました。やはり、日本は先進国として、経済力が豊かな同時に、環境をもたらず諸問題も重視されていると感じました。

また、先生と皆さんとほんの四日間旅だったのに、いろんなことが勉強でき、視野が広がりました。自分が知らないことはまだ山ほどあるので、これから、勉強し続けたいと思います。(大産大<留学生>/任)

- 今回の北京大学との学生交流を通じて、大学院生の熱心な修学への姿勢や充実した校内の環境に感心しました。とくに図書館の蔵書の多さ、また先進的な博物館を学内に完備するなど、中国の最高学府と呼ばれる北京大学に中国という国の勢いを感じました。今後の北京大学との交流を通じては、日中のTV会議システムを使った e-Learning 授業だけではなく、じかに北京大学の教授の方々の講義やお話を聞く機会にも恵まれればと思います。(4回生/清水)

- 今回の北京の旅行は自分にとって大きな意味がありました。まず私は中国人ですが、北京大学は始めて来ました。中国では北京大学はトップの大学ですが、今回私は谷口先生に同行させていただき北京大学に行きました。そして、大学教授である先生方や研究者の方々、また博士課程に在籍されている学生の方々と交流し、自分の日本語の能力を活かしながら、日本人の学生と中国の学生交流の際の通訳をしたり、案内をしたりして、四日間楽しく過ごしました。私にとって、この四日間はテストと同じように勉強になった旅行でした。今回の目的は単なる旅行ではなく、先生の通訳としての役割もありましたが、私は日本に来てこの5年、自分の日本語は日常生活用の日本語であることがわかりました。今後は自分自身をもっと反省して、日本語の語学力をもっとレベルアップするつもりです。

また私にとって、今回の春休みは一番大事な時期です。なぜなら、4月になったら私は大学4回生になります。自分の進路を決めなければなりません。今回の旅行を通して、私は目標を決め大学院に進学したいと思いました。これから、日本語と英語を同時に勉強しなければなりません。大学院の入試は九月ですから、残り半年しかありませんが、この半年間勉強を集中して試験を通れるように頑張りたいと決意できた旅行でもありました。(大産大<留学生>/趙)

- 私は北京に24年間住んでいましたから、いわゆる観光という名目ではなく、今回の旅行に参加しました。北京についてはいろいろな事をよく知っています。したがって、北京に対する印象などはもちろん皆と違います。万里の長城に甲南大学の学生と訪れたとき、一番強く感じたこ

とは、今の長城の環境が綺麗になったことです。昔は公衆衛生の問題や不法商人の不法事の問題が旅行者を悩ましていましたが、今はそれが全くなりしました。そのことが私は大変うれしく感じました。それは政府が環境問題などを重視した証拠であると感じました。(大産大<留学生>/魏)

- 今回の中国研修旅行で初めて中国を訪れたが、自分が想像していた以上の経済成長の様子に驚いた。高層ビルの多さ、建設中の建物の多さ、自動車の多さ、どれも経済成長のスピードを表すものとして目に映った。それでもメインストリートから一步はずれると、全く違った景色が広がっており、経済格差がうかがい知れた。

北京の空気は排気ガスによってか、チリが舞っている感じがしており、大気汚染が進行しているように感じられた。おそらく自分が思っている以上のスピードで環境汚染が進行しているであろう。他方で、北京市内には電気を電線から供給されながら走る路線バスも走っており、全く環境に対してなにも講じていないわけでないことを知ることもできた。インフラ整備中とあって、日本とは違ってある意味で、環境に配慮した都市計画を進めることのやすさがあるのかもしれない。それでもなお自動車の排気ガスの多さは問題視すべきものであろう。環境整備における環境改善と共に、個人の環境意識の改善および向上の必要である。

文化遺産として、天安門広場、故宮、万里の長城の観光を行なったが、日本との文化のスケールの違い、特に大陸と島国の文化背景、歴史形成の違いを肌で感じる事ができた。また、同様に大学の規模についても同様のことを感じた。

今回の研修旅行をは、国際化を考えるよい機会となり、またそれを実感できる旅行であった。日本と中国との歴史的、地理的背景を今後勉強しておくことで、今回の研修旅行がより充実したものとなることだろう。(M2/田畑)

- 今回の研修旅行で初めてアジア大陸に足を下ろすことができました。国と同様に、大学の規模も大きく立派で、先生方や学生たちも自分自身に誇りを持っていると感じました。大学内を院生の方に案内していただきましたが、大学がとても広いため、常に移動していてせわしなかったのでゆっくり話す時間が少なかったことが残念です。また、会議では先生が広い世界で高くその力を評価されておられることを目の当たりにし、今更ながら改めて先生の凄さを実感しました。(4回生/阿河)

3 今後の学生交流・学術交流の展望

- これから、北京大学と甲南大学を結びつけ、行われるTV会議システムを利用したe-Learningはインターネットを通して、お互いの国にとって参考になるだろうと期待されます。また、お互いの国の政策や教育でメリットになる部分は学び、デメリットになる部分を予防的にフォロー

していけるという可能性から、大変すばらしい試みだと思います。こうすることによって、中国の学生は教材や書物など理論的なもので日本の教育を理解するだけでなく、実践で講義を受けることができ、長所を取り入れ短所を補うができると思います。(大産大<留学生>/任)

- 日本の環境教育は、公害教育から出発していると一般にいわれますが、日本環境教育学会の設立当初(1990年代)、環境教育といえば、理科教育や自然科学が主流とされていました。近年、“持続可能な開発のための教育”の動向とともに、社会科学や人文科学の領域においても環境教育が評価され、総合的に学ぶことが求められています。

今後北京大学との交流においても、両国の環境や社会・経済状況をふまえながら、環境教育の動向やその教育方法・内容・評価などを統合的に学べるようなフィールドが確立していくことを強く望みます。

私は1999年に開催された日中環境教育情報交流協会設立シンポジウムにも参加したのですが、両国の環境教育のツールや環境情報のコンテンツなどをより深く共有化できれば、両国の環境教育の推進にも大きく反映されていくのではないかと期待しています。(研究生/渡辺)

4 Photo Album



1日目 北京市内にて

お昼すぎに北京首都国際空港に到着。先生とは十年来のお付き合いとなられる田先生(北京大学名誉教授)と金先生(中央教育科学院)に出迎えていただきました。空港を出て、一行ホテルへ。車中、早速交通渋滞を体験することに。



北京市の繁華街を歩き、夕食は餃子をハシゴしてしまいました。実は餃子通の多いわがゼミでは、この日本餃子と焼餃子を堪能後、さらに夜の繁華街を歩き……屋台でセミとカイコの串焼きに挑戦!



2日目 北京大学環境学院にて

TV 会議システムの設置を行ない、その後甲南大学情報教育センター間とテストを行ないました。



2日目は二手に分かれて別行動になりました。
Aグループは北京市内(郊外)の観光に行きました。
パンダ、やっぱり可愛い♪

一方、Bグループは北京大学で午前中に会議を行ない、午後からTV会議システムの設営、合間にキャンパス内を少し散歩しました。

3日目 北京大学環境学院にて

北京大学環境学院 邵 敏副院長、北京大学 Jun Yan 国際交流部長の先生方、北京大学名誉教授、教授、准教授の先生方、また大学院生も列席する中、公聴会が開催されました。

谷口先生から 1996 年からの日中環境教育の交流について、また 1999 年以降の日中環境教育情報交流協会を中心とした諸活動について紹介がありました。また中・長期的な視点から今後の交流についても話し合いがもたれました。

昼食会ののち、学生交流がされキャンパス内の見学、また学内の考古学博物館の視察などを行ないました。





4日目 帰国

左から北京大学環境学院 名誉教授 田徳祥先生、中央教育科学研究所 名誉研究員 金世柏先生、天津市張伯苓教育思想研究会 董先生、天津南開大学教授(天津市商會會長) 張先生、中国教育学会副會長 郭先生と。人民會議の時間をぬって、会食にお招きいただきました。

→→→→関西国際空港へ→→→→→→→→→

19 時近くに関西国際空港に到着。解散式をして、それぞれ帰途につきました。

内容的には盛りだくさんの四日間でしたが、それぞれ今後の進路に向けて、思いも新たに、刺激をたくさん受けた研修旅行でした。



5 参考資料

- レポート-谷口ゼミナール 2007 年中国研修旅行に参加して
- 北京大学キャンパスマップ

谷口ゼミナール 2007 年中国研修旅行に参加して

天野雅夫

2007年3月8日から11日の四日間、谷口ゼミナールでは中国北京に研修旅行を行った。この研修旅行に参加して、最初に感じたのは中国、特に北京市街の高度経済成長の姿だった。初めて中国を訪問したときは、天安門広場の前を洪水のように走る自転車の数に驚いたが、その5年後には、それが全てバイクに変わっていた。そして、今回は両側に高層ビルが立ち並ぶ10車線の中央道路が自動車とバスで渋滞していたのである。ある予想によると、現在の日本と同程度に中国で自動車が普及すると、その数は8億台になり、これは現在世界で走っている自動車の数に匹敵するという。こうした状況を続ければ、化石燃料の大量消費や排出されるNO_xやSO_x、そしてCO₂などが地球環境に及ぼす影響は否定できないだろう。今後ますますこの国において環境教育の重要性が増すだろうという思いを持った。また、夕方に北京市街の小学校の前を通りかかると、校門の前に子どもたちを迎えに来た親たちの列ができていた。「一人っ子政策」の影響からか、子どもたちはかなり大事に、ある意味で過保護に育てられているようだった。



メインストリートのビル群



屋間のラッシュアワー



子どもを小学校に迎えに来た親たち

北京では、日本にも何度も来られていて、私たちがいつもお世話になっている金世柏先生と田徳祥先生が出迎えて下さった。お二人ともお元気な姿で本当に懐かしい再会であった。そして田先生の案内のもと、最初に訪問したのは、北京大学環境学系および北京大学環境学院の建物であった。建物に入ると原子物理学や原子化学の実験室、研究室が並び、その奥に白郁華先生の研究室があった。今回の訪中の目的は、北京大学との協力関係を推進する交渉、そしてテレビ会議システムの設置であったため、谷口先生は早速交渉の準備を始められた。



北京大学環境学院



右から白先生、田先生、谷口先生、趙さん



北京大学110周年記念碑と水塔をバックに
右端は劉兆榮先生

そのとき谷口先生は、双方の意見の相違が現れると、根気よく、また丁寧に説明し説得を重ねながら調印の準備のために議論をされていた。こうした国際交流の方法やその難しさを現場で見ることができたのは大変な幸運であった。

テレビ会議のシステムは、別の研究室に設置された。テレビ会議システムの設定に少し手間取ったが最終的に国外にアクセスできるアカウントをお借りして、甲南大学のサーバーにアクセスすることができた。まだ十分とはいえないが、来年度の講義までには授業ができるようにする予定である。



フレッシュボイスとポリコム



北京大学での会議



北京大学の大学院の学生さんと

翌日は、北京大学との協定調印のための会議が開かれた。2時間におよぶ長い会議であったが、双方の環境倫理、環境教育の研究に関する相互訪問、そして学生の交流にとって実りの多いものであったとのことである。最後に、私たちと共に会議を傍聴していた北京大学の大学院の学生さんたちとも交流することもできた。

この日の午後は、谷口先生は引き続き協定交渉の準備を進められたが、日本の学生は北京大学の大学院生に学内を案内してもらったグループと、他方、圓明園という都市公園に行くグループの二つに分かれての行動であった。圓明園は、清朝の離宮であったが、アヘン戦争の時にイギリス軍に破壊された宮殿がそのまま保存されている。この時期はオフ・シーズンのため来園する人も疎らであったが、北京市街の周辺部に位置し、池や丘が日本の里山のような景観を構成し、各所に休憩用テラスやレストラン、売店等が配置され、北京市民の憩いの場となっていた。また、市の教育施設としても利用されているようであった。



圓明園の正面ゲートと広場



園内は電気自動車が周回する



北京市少年教育基地の建物

この研修旅行は四日間と駆け足の日程であったが、その中身は濃いものであった。今回、谷口先生の教え子である中国から日本に留学している趙さんをはじめ三人の学生さんが、この研修旅行に参加し共に行動した。この三人の学生さんと移動の時などに、中国のこと

を色々教えてもらうことができた。谷口先生は、学生に対して日本人、中国人といった国籍にはまったく関係なく熱心に指導をされるが、日本人よりも個が確立していて、向上心のある中国の学生さんに次のような話をしていたことが印象深かった。それは、ある夕食会のときに谷口先生が「この研究室の活動は大変ではないか？」と聞いたところ、中国人留学生が「自分のための勉強ですから、全然大変ではありません」と答えた。しかし、この答えに対して「それは良かった。しかし勉強は自分のためだけにするものではない。しっかり勉強して、そうしてその学んだことを今度はそれを人に教えなければならないのだよ」と応じられていた。何かを学ぶということは、自分だけで完結してはいけない、という先生の考え方は、ともすれば「我れさえ良ければ」と思いがちな日本人も含めた現代人に対する警鐘であり、そして学ぶということ、教育についての根本を説かれているように思え、この会話が今でも心に残っている。

北京の街は上述のような経済成長に加えて、さらに 2008 年のオリンピックに向けて競技場や各種設備の建設が急ピッチで進んでいた。こうした状況の中で、これから学校教育だけでなく社会教育、生涯教育においても「持続可能な社会」ということが重要な課題になってくるだろう、という思いを持ちつつ私たちは四日間の訪中を終え、日本への帰路についた。

